

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
110	川崎市立虹ヶ丘小学校	井上 恵子

学校教育目標	今年度の重点目標
1. 健康でたくましい子ども 2. 希望をもち、自らを高める子ども 3. 明るく心豊かな子ども 4. よく工夫する子ども 5. すすんで働く子ども	・児童一人ひとりに確かな資質・能力をつける。 ・互いのよさを認め、尊重しあう学校をつくる。 ・心と体が健康で、たくましい子どもを育てる。 ・地域や保護者から信頼される、開かれた学校にする。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
一人ひとりに資質・能力を身に付けさせる。 主体的な学び手の育成 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営方針「にじいろプラン」の具現化のため、地域単元「わたしたちのまち 虹ヶ丘」づくりとカリキュラムの編成に取り組む。</li> <li>・全学年、全教科で「学びのスタンダード」を取り入れて授業を行う。</li> <li>・「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を身に付けさせる。</li> <li>・「聴いて・つなげる・深める」授業づくり、全員参加による授業と対話的な学習活動の実現のため、相互指名を取り入れ、授業者はファシリテーターという意識をもつ。</li> <li>・共感する、考えの違いを聞き分け質問するなど学びが深まることを実感させる。</li> <li>・「めあて・見通しと振り返り」による主体的な学び手、学びを自己調整できる子どもの育成に取り組む。</li> <li>・家庭学習を通して、学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々とかかわりのある学習単元をつくることができた。校内研究で提案してカリキュラムに位置付けた。創立50周年式典では、学習で身に付けた力を使って、学習したことを表現できた。今年度の一番の成果である。</li> <li>・温かい聴き手が育ちつつある。自分の考えを表現する時には、相手を意識した立ち位置、視線の向け話し方を工夫できるようになってきた。発言のときに共感のうなずきやつぶやきが生まれてきた。</li> <li>・国語科のカリキュラム見直しを行ったり、文詩集かわさきを活用して、読む楽しさを味わわせることができた。</li> <li>・読書力向上をめざし、図書館利用者や貸出本の数を増やす工夫をした。全校年間貸出数が目標の4000に達したのは、成果である。</li> <li>・家庭学習は定着しなかった。「自主学习」と意識を変えて取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と児童の思いから生まれる学びを大切にしたい児童が生き生きと夢中になって学ぶ姿を作り出したい。</li> <li>・児童が授業を展開できるように、教師はファシリテーターという意識をもち授業を行う。</li> <li>・「あたたかな聴き手」「やさしい話し手」の具体的な姿を児童にわかりやすく提示しながら、学校全体で取り組んでいく。</li> <li>・自分の考えをもつ(書く)→考えをペアやグループに伝える→全体共有で学びを深める→再考する のサイクルのスタイルで学びをつくっていく。</li> <li>・朝読書の回数を増やして読書時間を増やす。お話を高学年でも行い、お話の世界を楽しめる子どもを育てる。</li> <li>・保護者ボランティアを募り、読み聞かせの回数を増やす。</li> <li>・自主学习に関しては保護者の理解を得るための努力を続ける。</li> </ul>
基礎基本の定着と資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わからない」と言えるクラスの雰囲気づくりと「わからない」に対して児童が説明する対話型、問題解決型の授業づくり。</li> <li>・算数、国語のTT、少人数指導導入</li> <li>・きめ細かな指導、個別最適な学びに取り組む。</li> <li>・GIGA端末を使用した学習の充実</li> <li>・国際教室でのグループ学習での言葉の獲得や、教室の学習の予習を通して、外国につながる児童が、教室を居場所として安心して過ごせるように学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入り込みや取り出し、少人数指導など、その時々に応じて行った。成果として、「わからないから教えて」と自ら聞く児童が増え、「わからない」を解決する問題解決型の学びができるようになった。</li> <li>・朝会後に、「おはなしきいて」の取り組みに力を入れた。話を聞きながら考える。聞いて考えたこと・思ったことをまとめる活動により、相手が何を伝えたかったかを考える力、話の内容を要約する力、感想をもつ力が、少しずつ向上した。考えながら話を聞く児童が増えたが、書くことに時間がかかる。また、せつかく書いたものをクラスで交流してもよいのではないかと考えている。</li> <li>・GIGA端末を活用し、自分の考えをまとめ、表現したものを共有することで、友達の考えのよさを知ることにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育全体で児童の言葉の力を高めていく必要を感じている。語彙を増やすために、言葉に着目する児童を育てる。そして、自分の言葉で自分の考えを説明する機会を増やす。考えを聴き合うことで他者理解、人間関係づくりにつながると考えている。</li> <li>・少人数指導、入り込み、取り出し計画を立て、児童の困り感を解決する。</li> <li>・小規模校ではかかわりが学校内に閉じてしまいがちである。来年度もさまざまな人・もの・ことと出会わせていきたい。他校・地域とのつながりをさらに広げたい。学校内での対話とは違って、大勢の人や大人たちや距離のある相手との対話を取り入れることで、言葉の力が身に付くと考えている。</li> <li>・外国につながる児童が学級・学校になじめるような、国際級のカリキュラムをつくり、単元学習を行う。</li> </ul>

3	<p>互いのよさを認め尊重しあう</p> <p>一人ひとりの違いを認め、多様性を尊重し合いながら共生・協働の心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な人権尊重教育、多文化共生教育と人や自然とのかかわりを通して、共に生きようとする心豊かな心を育てたい。</li> <li>・ゲストティーチャーによる特別授業により、人とのかかわりを増やすことで、学びを広げる。</li> <li>・互いを尊重、多様性を尊重することを学ばせる。</li> <li>・いじめの未然防止教育と早期のいじめ防止基本方針に基づいた対応</li> <li>・言葉による自己表現を通した人間関係づくりの充実</li> <li>・「いのちの授業」をカリキュラムに位置づける。</li> <li>・児童の声に耳を傾け寄り添う支援を行っていく。</li> <li>・支援教育コーディネーターと巡回カウンセラーとの相談の充実をはかる。</li> <li>・「ありがとう」がいつばいの学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を越えたかかわり合いができています。年間を通して6年生全員がリーダーを経験でき、下級生からあこがれる存在となる成長が見られた。</li> <li>・折り鶴の会、校歌の作詞者、助産師さん、モンゴル出身のセンジャー先生の講話と馬頭琴演奏などを実施したことにより、かかわりに広がりが出た。多様性に気づいたり、平和や幸せについて考えたり、一人一人が大事な存在であることへの気づきから命の大切さを学ぶこともできたりした。</li> <li>・朝会・集会・行事・特別活動などさまざまな機会を捉えて「いじめ防止」について児童の思考を促した。成果が出てきた。</li> <li>・自分の気持ちを言語化できるようになり、言葉で思いを伝えることができれば、関係づくりもスムーズにいくと思われる。</li> <li>・巡回コーディネーターにより、外国につながる保護者の相談も受けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年行っているたてわり活動に加えた。休み時間にたてわりで遊ぶ時間は継続していきたい。1年生を迎える会、6年生を送る会については、ねらいを再確認し、学年児童の思いを表現する場としていきたい。</li> <li>・「いじめ防止」の取り組みは、何度行ってもよいので、児童や教員の発想も取り入れて、年間通じて取り組んでいく。</li> <li>・「いのち」を大切に取る取組の年間計画を立てたので、来年度はそのカリキュラムで1年から6年まで実施していく。</li> <li>・教育相談日を設定し、さらに保護者の相談窓口を広げる。保護者にも寄り添いながら、児童の成長につなげる。</li> <li>・「ありがとう」がいつばいの学校づくりのために、周囲にいる人々を大切にする児童を育てたい。そのためには、具体的に何をしたらよいかを考えたい。</li> </ul>
4	<p>生きる力の育成</p> <p>児童一人ひとりのよさを引き出し、主体的に考えて行動する児童を育てる。</p> <p>他者貢献・社会参画の態度と心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自主的な活動を引き出す。</li> <li>・役割を与え、考えて行動する力を育成。その中で、責任感や自己有用感を育てる。</li> <li>・自分の心と身体を調整する力を育成する。</li> <li>・自分の命、友達や周りの人の命を大切にする心を育てる。</li> <li>・委員会活動を活用し、自分たちの力で学校生活をより楽しく充実したものとする力を育成する。</li> <li>・学級目標を児童と共に考えることで、クラスを自分たちでつくっていく意識を育てる。</li> <li>・防災、防犯、情報モラル、自転車の乗り方などの意識の向上と日常的に人を大切にする取り組みを考える。</li> <li>・食育の推進</li> <li>・レインボー運動タイムを活用し体力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スローガン「虹のしあわせ ずっと続くよ どこまでも」の実現のために何をしたらよいかを、計画委員会・各委員会が計画を立てて実行してきた。創立50周年記念を自分事として考え意見を言えるようになった。</li> <li>・学校説明会・学校報告会、学校運営協議会などに児童が参加し、取り組みを保護者や地域の方々に説明した。児童は発表し振り返ることを繰り返すことで、修正力が身に付き、褒められて自信をもつことができた。</li> <li>・令和7年度の創立50周年式典を実施した。スローガンを軸として、児童と職員の共同体として取り組んだ。児童の考えたことを、ひとつひとつ実現することができた。式典では、日頃の学習の成果を伝えるために、言葉を選び、表現を工夫して、地域の方々に認められて喜んでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで、みんなが幸せな学校をつくっていくという意識で、来年度も取り組んでいきたい。</li> <li>・代表委員会で、学校のスローガンや創立50周年スローガンを実現する具体的な計画を立てて、全校児童が自主的に活動する姿をめざす。</li> <li>・「地域も笑顔があふれるように」との思いから、地域の人とのかかわりのある学習を展開していく。そのなかで、他者貢献・社会参画の心と態度を育てていく。</li> <li>・学校の特色であるたてわり活動を、児童の「主体性」「生きる力」を育てる場となるようにしたい。</li> <li>・自分の命を守る・自分を大切にする意識をもてるように、カリキュラムや環境整備に力を入れる。</li> </ul>
学校関係者の評価		学校運営のまとめ		
<p>学校運営協議会にて。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス、活気に満ちていた。先生と児童の一体化を感じた。</li> <li>・落ち着いた授業に取り組んでいた。先生が熱心に子どもたちと向き合っていた。</li> <li>・5・6年の授業は、積極的に話し合っている姿が見られた。人数が少ない中、うまく話し合いができていた。コンピューターも使いこなしていた。</li> <li>・低学年は、雑巾や用具が乱れていたのが気になった。</li> </ul> <p>保護者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシーは今では生きる上で必ず身に付けるべき知識、スキルだと思うので、国語の中で学べてよかった。先生が「どうしてそう考えたの」と根拠を考えさせていたのが大事なことだと思った。ポスト・トゥルースの時代に、賢く、冷静に物事を見つめられる人になってほしいと思う。</li> <li>・理科の授業では、水溶液の色が温度変化するのをパソコンで録画するなど、パソコンを使いこなしていた。仮説を立て、実験し、見て感じたことを言葉にして伝えることは難しいが、クラスの友達が補足し合いながら結論を導き出すような授業だった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の実現に向けて、多くのかかわりの中で、考える力、言葉の力、人間関係をつくる力などを育成した。</li> <li>・児童が地域に出て学びを多く行うことができた。地域の方々とのおふれあひながらの学習や、他の施設との交流も進んだ。大人に向かって発表する機会にも慣れて、説明力・プレゼン力など話す聞く能力、自己表現力の高まりも見られる。</li> <li>・昨年度生まれた単元に、今年度作った単元を加え、カリキュラムに位置づけ、来年度はさらに児童の実態に合わせて、継続・見直しを行っていきたい。地域単元は、虹ヶ丘のまちへの愛着につながっている。</li> <li>・全校で取り組んでいる学びのスタンダードを新学年でも継続して、学校全体の資質・能力を育てていきたい。</li> <li>・創立50周年記念式典までの取り組み、当日の表現活動が自信となり、いつまでも心に残るであろうよい取り組みとなった。</li> <li>・来年度も、「虹のしあわせ ずっと続くよ どこまでも」の実現のためには何をしたらよいか。やってみてどうだったか。次はどうしたらいいかなど、目標をもち実践、ふりかえり、次の目標を設定するなど「学びのサイクル」を身に付けさせながら、楽しい学校をつくっていきたい。</li> </ul>		